

受難の主日 2020.4.5

エリ、エリ、レマ、サバクタニ

マタイ福音書 27:11-54

イエスは総督の前に立たれた。総督がイエスに尋問した。

「お前がユダヤ人の王なのか」イエスは言われた。「それは、あなたが言っていることです」

祭司長たちや長老たちから訴えられている間、これには何もお答えにならなかった。ピラトは言った。「あのようにお前に不利な証言をしているのに、聞こえないのか」それでも、どんな訴えにもお答えにならなかったのも、総督は非常に不思議に思った。

ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することになっていた。そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。ピラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。一方、ピラトが裁判の席に着いているときに、妻から伝言があった。「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。そこで、総督が言った。「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、言った。「バラバを」ピラトが言った。「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」皆は、言った。「十字架につけろ」ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたというのか」群衆はますます激しく叫び続けた。

「十字架につけろ」ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題

だ。」民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。そして、イエスの着ている物をはぎ取り、赤い外套を着せ、茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、侮辱して言った。「ユダヤ人の王、万歳」 また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、そこに座って見張りをしていた。イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、言った。「本当に、この人は神の子だった。」

## 説教

イエスの最後のことばを4つの福音書はこう書き残しています。

**三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。**

マタイ 27:46

**三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。**

マルコ 15:34

**イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。ルカ 23:46**

**イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。ヨハネ 19:30**

イエスの生まれる400年前にギリシャにソクラテスという哲学者がいました。

イエスとソクラテスの最後には似ているところがあります。

### 1. 裁判

両人とも裁判にかけてられています。歴史的にはどちらも不当な裁判だったとされています。

### 2. 有罪

両人とも裁判で有罪とされ、死刑が執行されました。

### 3. 著作

イエスもソクラテスも著作を残していません。信徒や弟子たちの著作によって「ことば」や「おこない」が残されました。

しかし、両者には違いがあります。イエスは宗教者であり、ソクラテスは哲学者だという点です。イエスはその思想において信仰を説きますが、ソクラテスの思想は思考、考えるという方法、哲学を説きました。

ソクラテスの最後は「従容（しょうよう）として毒杯を飲み干した」といわれています。（注参照）イエスの最期はマタイとマルコは同じですが、ルカ、ヨハネはまるで違う最期となっています。福音書以外の歴史的な資料が現存していないので、ほうとうはどうだったのかは今となってはわかりません。

**三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。**

マタイ 27:46

「神に見捨てられた」このような思いにとらわれることは、わたしたちには確かにあります。旧約聖書のヨブ記にも全編この思いを書き綴っています。では、末期のイエスも「神に見捨てられた」という思いにとらわれたのでしょうか。

イエスを信じるならばそれは違います。イエスは十字架の苦しみのなかで神を見ました、それだけでなく神の向こうにある「何か」を見たのです。こう解釈すると、ヨハネ福音書で証言されている「成し遂げられた」とは神とイ

イエスがともに成し遂げたことを意味していることになります。イエスが神のはたらきに世界で最初に気づいた偉大な宗教者であることを信じるならば、その最期に神とイエスがともに成し遂げたことが必ずあるはずです。

ソクラテスの残した思考方法は哲学というかたちを通して連綿と続いていきます。同じようにイエスの思いと行いはキリスト教をとおして今も続いていきます。

わたしたちははことばに頼らずに信じることができます。そこに信仰の真骨頂があります。

イエスの最期のことば「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」をとおして、イエスが最期に見た光景を信じる力をわたしたちにお与えください。

-----

注)

クリトンが何か言い残すことはないか問うと、ソクラテスはいつも言っている通り皆が自分たち自身を配慮し、これまでの議論に従って生きてもらうことを希望する。クリトンが埋葬方法について尋ねると、ソクラテスは今しがた議論したように死ねば魂はここを去っていくので、死体は世間の習わしに合うように埋葬してくれればよいと言う。

日暮れ近くになっており、ソクラテスは沐浴のためクリトンと共に別室に向かい、2人の息子や妻クサンティッペと話してから彼らを帰す。沐浴を終えて戻って来て座ると、刑務委員の下役がやって来て、ソクラテスの取り乱したり悪態をついたりもしない立派な態度を称賛しつつ涙ながらに別れを告げる。

ソクラテスがクリトンに毒薬（毒ニンジン）を持ってこさせるよう告げる。クリトンはまだ日が沈んでないのだから急ぐことはないと提案するが、ソクラテスは刑を少し遅らせることを儲けものだと思える生に執着した人々とは違っていると引き止めを拒否する。クリトンは使いに合図をし、すり潰した毒薬（毒ニンジン）が入った盃を持った死刑執行人を連れて来させる。ソクラテスは上機嫌にそれを受け取り、神々に祈りを捧げてから、平然とそれを飲み干す。

周囲の者たちが泣いて見守る中、ソクラテスは執行人の指示通り、歩き回り、足が重くなってきてから仰向けに横たわる。下半身から麻痺が広がり、下腹部まで来たところで、

ソクラテスは顔にかけられていた覆いを取り、クリトンにアスクレーピオスに雄鶏一羽の  
供え物をするよう依頼する。これがソクラテスの最後の言葉となった。クリトンが他に言  
うことはないか聞き返すも返事はなく、しばらくして体がピクリとしたので覆いを取ると、  
ソクラテスは絶命しており、クリトンがその口と目を閉じた。(パイドン、Wikipedia か  
ら引用)

-----